

文化・芸術

クラッシュジュプレス加工 メタリック織物

1991年

新井淳一 (1932~2017年)

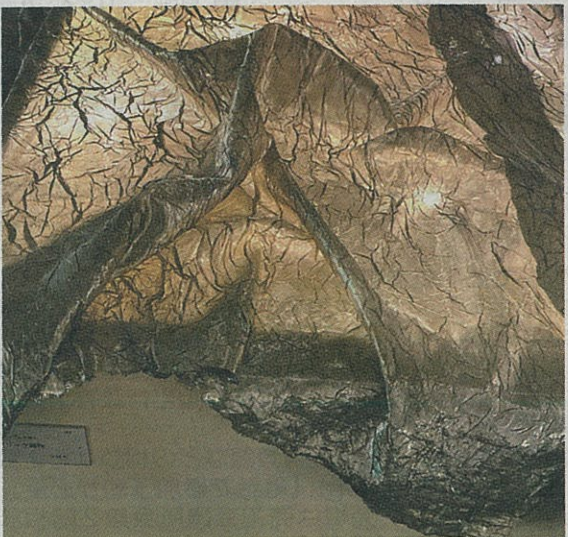
洋服にしわがついたとき、アイロンでしわを無くすように、通常「しわ」は不都合な存在とされてきました。しかし、新井淳一は布に「しわ」をわざとつけることで、布の存在感や立体感を出し、新たな表情をもつ布をつくりだしていったのです。

本作は、プレスすることによって不規則なしわをつけています。一見するとくしゃくしゃにしたアルミホイルのような硬い金属の質感を連想させますが、実は風になびくほどやわらかく薄く、光をあてると透けるほどなのです。作品の前を通り過ぎると時々揺れる様子が、「布」であることを実感させてくれます。

今回は透ける美しさやしわの表情を体感していただくため、下から光をあてて展示しております。光のあたっていない部分の硬い表情と透けて輝く薄い布の表情をぜひご覧ください。

今週末の4連休、大川美術館は全日開館いたします。23日(水)は振り替え休館となりますのでご了承ください。

(池田)



《名画の扉》

大川美術館企画展から